

# 心的外傷を生き延びるよびいす。

日時 2015年3月1日(日)12:30-15:30  
開場 12:00  
会場 明治大学 アカデミーコモン 309B



[http://www.meiji.ac.jp/koho/campus\\_guide/suruga/access.html](http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/access.html)

参加費: 2000円 当日現金のみ



「東日本大震災の当日、帰宅困難となった星空の下、私は『岩手…岩手…』という遠くからの呼び声を聞いた」

「被災地とはあらゆる心的外傷の縮図である」

「津波によって飲まれた地域と残る地域を隔てる一線:まざまざと露呈するそれを見た時に、私は見えない境界に常に隔てられたまま生活する対人暴力の被害者の困難が、災害によって可視化されていると感じた」

2011年の東日本大震災から既に4年が過ぎようとしています。本講演においては、不思議な経緯で岩手県教育委員会の宮古・山田地区の学校支援と盛岡市の単科精神病院におけるトラウマ外来設立に携わることになった講師が、月に2回の一泊二日の被災地支援の体験から学んだこと・広く伝えたいことについてお話しします。

- ・災害による直接的な影響
- ・被災地における子ども虐待やDV・性被害などの発現、露呈、深刻化
- ・徹底的な資源の欠如という観点における大震災と子ども虐待とDVの現場の類似性、その対処方法
- ・災害時の学校資源の有効性について
- ・対人暴力被害の支援者が災害支援に従事して考えたさまざまなこと。

単に災害の悲惨(心的外傷)を語るだけでなく、そこから私たちが得られる人生への態度—外傷後成長や外傷後成功についても触れ、広く心的外傷を生き延びることによって得られる智慧や希望についても伝えられればと思います。尚本講演による収益は主催のJEMDRA-HAP(日本EMDR学会人道支援プログラム)の災害支援のための緊急時活動費に寄付されます。



白川(西)美也子(しらかわ・みやこ)

精神科医、臨床心理士

浜松医科大学卒業後、独立行政法人天竜病院精神科医長、  
浜松市精神保健福祉センター所長、  
国立精神・神経センター臨床研究基盤研究員、  
昭和大学精神医学教室特任助教を経て  
こころとからだ・光の花クリニック院長。  
クリニックでの臨床活動と共に、社会福祉施設など地域における臨床研究、  
トラウマに関するケアや治療技法の普及に努めている。

主要著書(共著)

- 『性暴力被害におけるPTSD』(日本評論社、2001)、
- 『心的トラウマの理解とケア』(じほう社、2001)
- 『無意識を活かす現代心理療法の実践と展開—メタファー・トランス・リソース』(星和書店、2004)、
- 『埋葬と亡霊』(人文書院、2005)、『子どもの精神医学』(金芳堂、2008)、
- 『犯罪被害者のメンタルヘルス』(誠信書房、2008)、
- 『支援と復興の災害心理学』(福村出版、2012)